

平成29年(2017年)10月4日

れきみん

資料館だより

No. III-7

相生市立歴史民俗資料館

「れきみん」の秋

10月に入り、歴史民俗資料館(れきみん)のある中央公園でも秋を感じるようになりました。「れきみん」裏手のコブシはオレンジ色の実をつけ、周辺の木々の葉も色づき始めました。

中央公園は「相生文学碑の森」としても整備され、「日置少老万葉歌碑」「佐多稲子文学碑」「水守亀之助文学碑」「野口雨情詩碑」「半田鶏肋句碑」「浦山貢文学碑」等の碑が建てられています。

“読書の秋”に、「れきみん」「図書館」とともに公園の文学碑を巡ってみるのはいかがでしょうか。



(左) 佐多稲子文学碑 (右) 歴史民俗資料館

〈相生市域の獅子舞—特別展「相生のまつり」を終えて—〉

特別展「相生のまつり」(9/16～10/1)では、獅子舞を中心に22の神社の祭りをパネル写真で紹介しました。

相生市内各地区の獅子舞は、すべてが伊勢大神楽(伊勢神宮の神祭りで行われていた歌舞)の流れを受け継いでおり、その動きはとても優雅です。伊勢大神楽には、獅子を舞って疫病・悪魔払いをする神事をともなっていました。伊勢大神楽一団は各地を回り、その獅子舞を伝えました。伊勢大神楽の獅子舞は各地で大変喜ばれ、若衆とよばれる青年組織の人たちは舞い方を習いました。舞い方の指導を受けた青年組織の人たちは工夫しながら独自の舞いを創りあげ、氏神の祭りで舞いあげるようになりました。

『相生市史』第4巻(1987)には、祭りで行われる26地区の獅子舞が紹介されていますが、その記述からは、市域全体に共通する多くの事柄がある一方で、各地区それぞれに特色のあることがわかります。

〈獅子舞の舞台〉多くの地区において、ダンジリ上で舞いますが、若狭野町や矢野町の一部では「獅子台」「獅子舞台」とよばれている地区があり、北部ではダンジリを使わない地区もあります。

〈獅子頭〉すべての朱塗りの獅子頭を使っています。色毛や鈴、装飾などは各地区で異なります。特異な例として、森地区では「雄獅子の舞」に黒塗りの獅子頭を用いています(特別展で展示、「れきみん資料館だより」III-6参照)。

〈獅子の胴幌〉旧市内の相生3地区(北町・南町・上町)と陸・野瀬・鰯浜地区では白い円形文のある紺色系生地を使っています。他の多くの地区は毛氈文のある茶色系生地ですが、緑色系・黒色系・濃紺色系生地を使っている地区もあります。

〈女形・子役の名称〉成人の女形は、一部を除いて「お多福」または「おたやん」とよばれています。

子役は、南部の旧市内では佐方地区の「からこ」を除いて「あやこ」とよばれています。北部の矢野町では「からこ」、中間地域の若狭野町では「からこ」と「あやこ」が混在しています。なお、相生3地区では子役の年長者を「オンナガタ」と称しています。

〈獅子舞の種目（演目）〉

- ◇ 大半の地区で鼻高天狗が見られます。地区によって「鼻高」とよばれたり「天狗」とよばれたりしています。多くは獅子舞の一種目として獅子とともに登場しますが、相生3地区では「太刀」とよばれ、獅子舞の前に雌雄一対の「太刀」が「太刀切り」を行って悪魔払いをします。
- ◇ 種目に動物が登場することがあります。動物の種類は猿と狐に限られています。矢野町と若狭野町ではほとんどの地区で見られますが、旧市内では佐方（猿）を除いて登場しません。
- ◇ 多くの地区で共通して舞われる種目としては、「神勇（神勇み）^{かみいさみ}」または「神楽」、「牡丹（ぼたん）」、「四方舞」、「胴返し（ほら返し）」、「八島（八嶋・屋島・矢島・矢州・やしま）」、「吉野」「桜舞（桜・桜の舞）」などがあります。
- ◇ 「神勇」は、悪魔払いをする舞として旧市内すべての地区で舞われていました。若狭野町や矢野町では、「神勇」を舞う地区と「神楽」を舞う地区があり、上松や福井のように両方を舞う地区もあります。
- ◇ 「餌拾い（獲拾い・えひらい）^{まば}」は旧市内のすべての地区で見られますが、若狭野町・矢野町では疎らです。また、「早替り（早変わり・はやがわり）」も旧市内で多く、若狭野町・矢野町ではわずかです。
- ◇ 「伊勢音頭」「矢車」は旧市内と矢野町で見られますが、若狭野町にはありません。
- ◇ 以下のように、他は見られない地区独特の種目も存在します。

相生北町「ハイカラ」「花踊」、相生南町「蹴込み^{けりこ}」、相生上町「越峠^{こえざお}」、陸「志んばん^{せきだい}」「関台^{せきだい}」、若狭野「葛ノ葉」、瓜生「あや」「けまり」「しれの舞」、二木「紅花^{こうばな}」「安猿^{やす}」、真広「新ねり」、下田「すでの舞」、上土井「中度^{なかたび}」「早狩^{はやかり}」、森「雄獅子の舞^{おんじし}」「だに」「鎌切^{かまさり}」、榊「でんでこ」など。

〈旧市内の舞い方の系統〉市史によれば、次の2系統があるとされています。

- ◇ 那波八幡神社系…引き獅子（静の舞い方）那波・佐方・陸・鰯浜・（小河）
- ◇ 相生天満神社系…押し獅子（動の舞い方）相生3地区・野瀬・（矢野町の舞と類似）

共通点や差異・特色が生じた背景として、獅子舞を習い覚えるための地区間の交流と創意工夫のあり方が想定されます。獅子舞を習い継承してきた先人の想いに心を馳せながら、秋祭りを楽しみたいものです。

〈参考文献〉

佐々木泰彦 1987「祭礼と民俗芸能」『相生市史』
第4巻（相生市・相生市教育委員会）
（中濱久喜）



相生天満神社の獅子舞「洞返し」 撮影：橋本一彦